

「家庭基礎」学習指導案

広島県立庄原実業高等学校

教諭 赤木 由美

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 松田 百合）

本学習指導案では、事前に縫製した練習用のポケット付け作品の自己評価・他者評価から、クラスの多数が課題と感ずる縫製部位を特定し、その適切な縫製方法について考え、アイデアを共有させる活動を通して、自分自身が課題の解決策を考えることで縫製技術の向上につながることを体験させるよう計画されている。自己評価・他者評価により、適切な縫製方法を再確認させ、生徒同士で学びあい、教えあう関係づくりにつながるよう工夫されている。

- 1 実施日 令和元年11月18日（月）6限目 14：25～15：15（50分）
- 2 学年・学級 生活科学科 第1学年 40名（男子2名・女子38名）
- 3 題材名 衣服をつくる

4 小单元について 被服の修繕 ～シャツのポケットの修繕方法～

(1) 小单元観

本小单元は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」2 内容 (2) 生活及び消費と環境 イ被服管理と着装 により、健康で快適な自立した衣生活を営むために、被服管理に必要な被服材料、被服構成などの知識・技術を習得させることをねらいとしている。健康で快適な衣生活を営むために、被服の修繕などの適切な手入れをするための技術を身に付けるために、生徒が主体的に考え、工夫しようとする態度を育むことを目指す。

(2) 生徒観

生活科学科1年生の生徒は、基礎的なミシン縫い、手縫いの技術を習得しており、1学期には全国高等学校家庭科技術検定被服製作4級を取得した。福祉関係の進路希望者が多く、2年次から生活文化類型で被服製作を学びたいと希望した生徒は15名である。家庭基礎の授業内容に対する興味・関心は高く、意欲的に授業に臨む姿勢が見られる。しかし、週1回の授業展開であることから、前回学習した内容の知識・技術の定着に個人差があり、授業目標の設定や授業の工夫が必要である。

(3) 指導観（主体的・対話的で深い学びに向かう生徒を育成する家庭科の授業づくりと評価の工夫について）

被服管理の指導に当たっては、身近な素材を教材に取り入れることで快適な衣生活についてのイメージを具体的にし、被服の管理についての思考を深めさせるよう工夫する。また、グループワークや他者評価を取り入れることで、自己と他者を比較させ、疑問点やその解決策についての協議を行わせることで主体的・対話的な学びを仕組むことにより、日常生活における課題の発見と、改善・向上を追究し、思考を深め合えるように導きたい。

5 小单元（題材）の目標

被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、健康で快適な衣生活を営むことができる。

6 小单元の評価規準

思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題解決に向け思考を深め、表現している。	健康で快適な衣生活を営むために必要な基礎的な技術を身に付けている。	被服管理に必要な基礎的な知識を身に付けている。

7 指導と評価の計画（全 4 時間）

次	学習内容（時数）	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	被服の基礎縫い（2時間）			◎	○	ミシンを使った基礎縫いを理解し、適切に縫製することができる。	行動観察 実技作品
2	被服の修繕（本時）		○			ポケットの適切なつけ方について思考し、表現している。	ワークシート
3	修繕（1時間）		○	◎	○	ポケットのつけ方を理解し、思考しながら適切に縫製することができる。	ワークシート 実技試験

8 本時の展開

(1) 本時の目標

ポケット付けの縫製技術の課題を発見し、適切な縫製を行うための方法を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

自己・他者のポケット付けの縫製技術の課題を発見し、その課題解決のための方策を具体的に考え、表現している。

【思考・判断・表現】

(3) 準備物

作品、ノート、ワークシート、プロジェクター、パソコン、タイマー、付箋、ものさし

(4) 学習の展開

分	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の手だて	評価規準 [観点] (評価方法)
導入 5分	○本時の目標の確認  ○ポケットのつけ方を確認させる。 (5分)	○制服のブラウスのポケット口がほつれている。どうする？ (実物提示) ワークシート配付  ○ポケットのほつれた原因を考えてみる。  ○なぜポケットの口止めをしなくてはならないのかを考えさせる。  ○ポケット口の縫い方のポイントを確認させる。	
展開 35分	○採点方法を確認する。 (10分)	○前時に行ったポケットつけ練習布を配付し、評価方法について説明し、自己採点・自己分析させる。  ◆具体例を紹介し、記入させる。	
	【評価項目】 ポケットの形に関すること、口止めの形に関すること、ミシン目に関すること		
	○グループワーク (15分)	○グループで採点、相互評価を行う。(4～5人)  ○グループで見本となるよい作品を1つ選ぶ。  ○共通して減点の多かった項目を1つ選ぶ。  ◆ものさしの使用や、見えにくい布地は裏から見て採点するなどの工夫を提示する。	
	○グループで出た意見を発表する。	○減点の多かった項目を発表し、全体で共有させる。	
	クラス全体での課題を1つに絞り、その原因を分析し、解決策を考えてみよう。		
	○グループワーク (10分)	○発表を聞いて課題を一つに絞り、その解決方法を各グループで考えさせる。  ○個人の意見、グループ活動での意見、全体で意見を共有し、発展させる。	縫製技術の課題を発見し、解決策を記述している。[思考・判断・表現] (ワークシート)
終結 10分	○まとめ  ○No. 1を投票	○課題解決策をこれからの実習や生活に活かし、日常生活の向上を目指すよう指導する。  ○グループ代表作品から、No. 1作品を選び、上手くできたコツを共有させ、自己評価させる。	

(5) 評価基準

評価	思考・判断・表現
A (十分に満足)	ポケットの正しい縫い方についての理解を基に、自己・他者の縫製技術の課題を発見し、その解決策を具体的に考え、記述している。
B (おおむね満足)	ポケットの適切な縫い方についての理解を基に、自己・他者の縫製技術の課題を発見し、その解決策を考え、記述している。
C (努力を要する)	ポケットの正しい縫い方を理解し、自己・他者の縫製技術の課題を発見しているが、解決のための方法を考え、記述することができていない。